



国中だより

一中ホームページ：国立市HP→くにたちの教育→国立市立小中学校へアクセス

国立第一中学校

学校だより

平成29年度9月号

9月19日発行

世界に目を向け、視野を広く

校長 黒田 宏一

8月の長雨や台風接近等天候不順だった夏季休業日を終え、2学期がスタートいたしました。新学期が始まって梅雨のような天気が続いていますが、その天候を吹き飛ばすように、生徒の表情や活動の様子は皆エネルギーで意欲的です。順調に出発できたことに安堵すると共に今学期も生徒の皆さんの活躍と大いなる成長を願ってやみません。

さて、国立市では、「RHグローバル人材育成基金」の活用事業として、平成27年度より夏季休業期間に市内在住の中・高生によるシンガポール派遣・研修を実施しています。本校からも毎年参加しており、本年も3名の生徒が研修をして参りました。現地の青年世代のメンバーとの交流、日本からシンガポールに進出している企業での研修、またホームステイをさせていただきながらの心温まる交流など、様々なプログラムを経験しながら多くのことを学んでいます。

本校では毎年9月に、シンガポール派遣に参加した生徒による研修報告会を全校生徒に向け実施しています。スライドを使い、英語で紹介（報告）するなど、工夫を凝らしながら一生懸命に報告してくれています。もちろん聞く生徒も真剣に聞き入っています。

そんな発表を聞くに付け、どの生徒も2項目については共通に話してくれます。1点目は、「文化等の違い」を直接感じていることです。例として「道ばたにゴミを捨てると罰金を課せられる。」ことを教えてください。東京23区ほどしかない国土面積に多種多様な人々が生活しています。様々な違いはあっても共に生きるために大切にすべきことの1つとして制度化し定着しているのだと思います。すなわち、「文化等の違い」を違いとして認めつつ「共存・共栄を目指す国」の姿を生徒は肌で感じているでしょう。

2点目は「語学力の未熟さ」です。現地で求められるその多くは、「話すこと」と「聞くこと」の力です。話すといっても準備された原稿を読み上げるだけではなく会話としての話すことであり、聞くことは相手の言わんとすることの理解に時間がかかることです。発音を気にしながら集中して聞き取り、持てる単語力をフルに使い、身振り手振りも交えながら伝えようとする必死さが伝わってくるようです。そして語学の習得（英語力の向上）に力を入れていくことを誓ってくれていました。この報告会を通じ、派遣参加生徒は2ヶ月前の研修を振り返り改めて目標を明確にすると共に、報告を受けた生徒にとっても今後の自分の（学校）生活の充実のためのヒントになっているようです。

東京都教育委員会では、教育施策・課題の1つとして『グローバル人材の育成』を掲げ、生徒に身に付けてほしい力として次の3点を示しています。

- ①日本人としての自覚と誇りを涵養し、豊かな国際感覚を醸成する。
- ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③相手の意図や考えを的確に理解した上で論理的に説明したり、反論・説得したりする能力を育成する。

「豊かな国際感覚」の醸成のためには、言語能力向上だけではなく、論理的思考力、課外解決能力、様々な人と関われるコミュニケーション力、他者の尊重や思いやりの態度などを身に付けることが大切です。そのための活動は学校生活の中に沢山ちりばめられています。留学生との国際交流授業も3学期に予定されています。これらの活動に積極的に取り組むことで「豊かな国際感覚」の素養が育まれます。直接体験の有無にかかわらず、世界に目を向け視野を広く持った一人一人となれるよう、積極的な様々な活動への取り組みを期待しています。本日、本年度の派遣生徒3名による研修報告会を実施いたしました。大変素晴らしい発表でした。



